

## 資料 2-(3)

## 基本事項

① 投入（支出） ・ ③ 結果（収入）

## ② 内容・活動

### ③ 結果

## 令和2年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	地域アートプロジェクト 滞在制作事業				
④ 成果	〔④成果〕 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット (転記)	「マームとジブシー」は文芸・音楽・ファッションなど、他領域とのコラボレーションでも知られ、現代演劇で高い評価と人気を獲得している。本企画は、そうしたカルチャーシーンのフォロアーと、当館の開館以前から前橋に根ざしている「詩」と「演劇」のコミュニティへの接続を意識して組成した。			
		成果	2025年3月22日に前橋文学館リーディングシアターで実施したトーク&スライドショーでは、県内外から演劇ファンが集まっただけでなく、日頃から同館の活動に参加する詩のコミュニティなど、多様な地域・世代からの参加者が見られた。			
		ねらい1 (転記)	① 演劇メソッドによる地域アートプロジェクトの可能性			
		成果	聞き書きによって収集した情報を、テキストや音声など用いた「物語」として提示することで、美術だけに偏らない幅広い文化愛好家にリーチできた。また、舞台美術の知見や役者の身体性を、美術館内やまちなかのサイトスペシフィックな展示に応用することで、美術と演劇双方の表現の拡張につながる事が確認できた。			
		ねらい2 (転記)	② 文化拠点の連携(美術館と文学館をつなぐ)			
		成果	美術と文芸を橋渡しするプロジェクトとして演劇作家によるプロジェクトを組成した。2024年度は前橋文学館リーディングシアターの利用にとどめたが、翌年の2025年は3階オープンギャラリーで当館と連携した展示も行い、両館の観客が4つのシーンを求めて街をめぐる回遊性を生み出すなど、プロジェクトのさらなる発展・深化につながった。			
		ねらい3 (転記)				
	成果					
⑤ 波及効果	個別評価	<p>&lt; 1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載&gt;</p> <p>上記「④成果」の他、本プロジェクトのリサーチと報告会《湧きあがってくる時間》の実施を通して、当館周辺の文化資源や歴史を継承し、語り継ぐための活動を行っている様々な団体や研究者とつながることができた。プロジェクトによってもたらされた場や人々との連帯は、翌年に実施した「マームとジブシー」の制作・発表はもちろん、当館によるアート事業を周辺地域に拡張していく上で貴重かつ重要なネットワーキングの契機となった。</p>				
	※記入日を()内に入れてください  ※概ね1年経過毎に再確認して修正					
自己評価 (担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	
	課題・改善点	2024年度は招聘作家の知名度と実力に対して「地域アートプロジェクト」にかけられる予算が限られたため、単年度ではなく3か年に分散してプロジェクトを設計せざるを得なかった。そのため館外の市街地の実装できる作品規模も得られる波及効果も予算範囲内にとどまっている。当館としては地域での企画組成にどの程度のリソースを割くのか、開館理念に立ち戻ったミッションの整理が必要である。				
引継ぎ事項 (特記事項)						
コメント・意見	館長 副館長	美術と文芸を橋渡しするプロジェクトとして演劇作家による2か年目のプロジェクトであり、限られた予算の中で報告会として形にすることができた。会場も前橋文学館を活用するなど当館の可能性を広げるプロジェクトとして企画されている。今後は、地域アートプロジェクトをどのように位置づけ実施していくのか検討する必要がある。				
	運営 評議会					